

令和7年度 市長との対話集会（加斗地区）議事要旨

日 時：令和7年10月6日（月） 19時00分～20時40分

場 所：加斗コミュニティセンター

参加者：24名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 観光・集客の強化

- ・「まちの駅」を観光拠点として活用（例：地域の特産品や土産物の販売、ガラス張りの施設）
- ・日帰り観光客が多い現状を改善するため、宿泊したくなる仕掛け作りと宿泊施設の拡充。
- ・雲城水を観光資源として活用し、ペットボトル飲料として製造・販売。
- ・松原海岸の整備を進め、長期滞在型の宿泊施設やキャンプ場として整備。
- ・市内各地への誘客コースやユニークなアクセス方法（希少価値の演出、ゲームコラボなど）を検討。
- ・商店街の賑わいを復活させ、小浜城の復元整備を提案。
- ・農業・林業・漁業といった小浜ならではの自然体験ツアーやマリンスポーツツアーを提案。
- ・スポーツの合宿場や練習場の誘致。
- ・貸農園を整備し、関西圏からの農業志望者を呼び込む。
- ・釣り観光をさらにアピール。
- ・競馬場や全国大会が開催できるスポーツ施設、アウトレットやコストコなどの大型商業施設の誘致。
- ・海中ホテル「若狹竜宮城」のような全国に一つしかないリゾート施設の建設。
- ・YouTuber が来たくくなるようなまちづくりを進め、e スポーツやアニメコラボイベントの実施。

(2) 住環境・働く環境の整備

- ・人が暮らしやすいよう、スーパーや買い物ができる施設の充実。
- ・新幹線開通を見据え、京都や大阪への通勤圏となる宅地造成を進める。（ベッタウン化）
- ・小浜西インターチェンジ近くに物流倉庫を建設し、物流拠点としてのハブ機能を持たせる。
- ・企業の誘致、特に水資源を活用したデータセンターなどの大規模企業の誘致。
- ・大学を誘致し、学生を呼び込む。
- ・市内の労働力確保のため、新幹線通勤費用の補助（定期券補助）を検討。
- ・大手企業やインパクトのある企業を誘致し、働きながらスポーツなどができる環境を整備。
- ・人間関係の良さや静けさといった「住みやすいまち」としての魅力を高めるべき。

(3) インフラ・行政サービスへの要望

- ・下水道料金が高く、移住のハードルになっているため、見直しを要望。
- ・5Gだけでなく6Gなどの最先端通信インフラを導入し、ネットワークを強化すべき。
- ・新幹線開通に伴い、観光名所への道路整備や二次交通の充実。

(4) まちづくりの進め方と情報公開

- ・まちづくりの方向性が多岐にわたり、ぼんやりしている印象がある。カテゴリーを明確に分けて、段階的に議論を進めるべき。
- ・市内の人たちが街の現状を知り、その魅力を自ら実感し、SNSなどを通じて内側から発信していく「インナーブランディング」が重要。

- ・市の取り組みの成果や反省点（PDCA サイクル）が市民に見えないため、市にとって良くない結果であっても市民周知をおこなうべき。過去の事業の効果も報告すべき。

2 市長からの主な回答

(1) 観光・集客について

- ・小浜市が新幹線開通後も「通過点」ではなく「目的地」となることが重要であり、「まちの駅」の在り方として、地域の特産品等を販売する「道の駅」的な機能を持たせ、道路側から中が見える工夫は良いアイデアである。
- ・宿泊施設の拡充は重要であり、小浜の美しい夕日や朝焼けを活かしたクルージングなどの観光コンテンツの開発を進め、「泊まりたい場所」としての魅力を高めていくことが重要。
- ・雲城水の活用については、「足水」のような座って涼める場所など、具体的なアイデアをさらに膨らませていくことで、新たな観光資源となり得ると考えている。
- ・小浜市が持つ豊かな地域資源を活かした体験型観光（2泊3日など）を推進し、市民がその魅力を知り、外部に発信していく「インナーブランディング」を強化していくことが重要。
- ・YouTuber などインフルエンサーを活用したプロモーションは、過去の事例（濱の四季のサーモン丼のバズり）からも効果的であり、今後も積極的に取り入れていきたい。
- ・競馬場や海中ホテル「若狭竜宮城」といったインパクトのあるアイデアも、地域活性化の視点から企業誘致の参考になるため、今後もどんどんアイデアを出していただきたい。
- ・スポーツ合宿誘致は、現在策定中のスポーツまちづくり計画でも検討しており、学生時代の記憶に残るような取り組みを目指したい。

(2) 住環境・働く環境について

- ・水を使った企業誘致については、「水と生きる」をキャッチフレーズにしているサントリーのような大企業が小浜の水の豊かさに魅力を感じた事例もあり、小浜のブランド戦略として積極的に発信していく。その他、データセンターなどあらゆる企業についても可能性を探っていく。
- ・最先端技術（6G、自動運転など）は、都会よりも地方の課題解決（オンライン診療、無人バスなど）にこそ必要であり、積極的に導入を進めるべきと認識している。
- ・新幹線通勤費用の補助については、現状では企業側が人材確保のために住宅補助や通勤手当を出す傾向があるため、民間企業の動きも注視しつつ、小浜から通勤する人が増えるような施策を検討する。
- ・「住みやすい、暮らしやすい」という小浜の良さを守り、心豊かな人材が働きたいと思えるような企業を誘致することで、良い循環を生み出していきたい。

(3) インフラ・行政サービスとまちづくりの進め方について

- ・農業集落排水のため下水道料金が高額となっていることは認識している。今回いただいたご意見を踏まえ、改善策を検討する。
- ・まちづくりの議論の進め方として、カテゴリー分けや段階的なアプローチの導入など効果的な方法を検討していく。
- ・市の取り組みの成果や反省点について、情報発信が不足しているというご指摘は大変重要である。財政状況が厳しい中、効果のない事業は「スクラップ」し、その理由も含めて市民に説明していく必要があり、今後、市民に事業の進捗や効果を報告できる方法を検討していく。
- ・若い世代の視点はまちづくりに不可欠であり、若者が帰ってきたい、そして真剣にまちづくりを考えてくれる環境整備を目指していく。